

## 平成 27 年度 第 3 回志摩市里海創生推進協議会 議事録

日時：平成 28 年 1 月 18 日(月)午後 2 時～4 時

場所：志摩市商工会館 多目的ホール

## 事務局

皆様こんにちは。今日は天気を心配しておりましたが、お昼から回復し、皆様の日頃からの心がけと感謝しております。只今から平成 27 年度第 3 回志摩市里海創生推進協議会を始めたいと思います。本日の資料は、事前にお送りすることができず、大変申し訳ございませんでした。本日、お手元にお配りさせて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願いします。本日も定例の情報共有に向けた議題の他に、第 2 次の里海創生基本計画の案に関する議事を中心とさせて頂きたいと思います。委員の皆様には、第 6 稿という形で、事前に計画書をお送りさせて頂いており、ご確認をお願いしておりますが、現在までに様々な修正意見等をいくつか頂いておりますので、事務局の方で更に修正しました第 7 稿を追加でお手元にお配りしております。本日は、この資料をご覧頂きながら議事を進めて参りたいと思います。なお、第 2 次基本計画に関する資料につきましては、現段階では策定過程という事ですので、傍聴している皆様にはお配りしておりませんので、ご理解をお願いします。次に本日の出席委員についてですが、志摩市の自治会連合会会長の山崎委員と、女性の会の北井委員が地域の行事があり、本日は欠席になります。また、観光協会の西尾委員の代わりに、本日は西崎専務にご出席頂いております。それと、西尾総務部長の代わりに、矢倉市長公室長に出席頂いております。また、今回もいつもと同じ様に、オブザーバーとして笹川平和財団(海洋政策研究所)の寺島所長にお越し頂いております。それでは、ここから高山会長の議長のもと進めて参りたいと思います。

## 高山会長

先ほど、事務局の方から紹介がありました様に、今日は第 2 期の計画の最終局面に来ておりますので、その確認と最終的な完成版に持っていくために何をすべきかという事でご意見ををお願いします。限られた時間ですが、いつも通り忌憚なくご意見ををお願いします。それでは、事項書に沿って行きたいと思います。2 番目、第 3 回協議会の狙いと獲得目標をお願いします。

## 事務局

それではお手元の資料の中で、第 3 回里海創生推進協議会の狙いと獲得目標の資料をご覧ください。今回の協議会は、第 2 回と同様に通例で行っております取り組み状況・成果の共有、それから、具体的な取組みの進捗状況の確認を 1 番目 2 番目でして頂きます。その後、3 番目の狙いとして、第 2 次里海創生基本計画の内容を確認して頂いて、修正点の

検討、それから今後の作業予定の確認をお願いしたいと思います。先程、濱野の方から確認させて頂きましたが、本日は基本計画の第 7 稿を改めてお配りしておりますので、これに沿って、修正点の検討をお願いしたいと思います。以上です。

高山会長

「狙いと獲得目標」ということで、1～3と書いております。宜しくお願いします。それでは3番目、平成27年度第2回協議会議事録の確認ということでお願いします。

事務局

お手元に資料1として、昨年10月28日に開催しました、すみません、資料にある“第1回”を“第2回”へ修正をお願いします。第2回里海創生推進協議会の議事録調整中となったものをお配りしております。今日この場で読み合わせをしている時間がないので、申し訳ありませんが、一旦お持ち帰り頂いて発言内容の誤字・修正等がございましたら、後日事務局まで連絡をお願いします。

高山会長

という事で、気付かれたところは、後ほど連絡をお願いします。では4番、取り組みの状況と成果及び今後の予定ということで、「狙いと獲得目標」の1番です。それに関してよろしくをお願いします。

事務局

それでは、事項書の4番になります。資料2-1をご覧ください。資料2-1では、前回の協議会から、昨日までの間に里海の基本計画に沿った取り組みがどのようなものか、どの様に行われたかを取りまとめしております。自然の恵みと保全と管理、それから沿岸域資源の持続可能な利活用、2ページには、地域の魅力の向上と発信という形で取りまとめをさせていただいております。一つひとつご紹介することはしないんですが、付属の資料として、地域の魅力の向上と発信のところで、11月17日～20日まで、ベトナムのダナン市で開催された東アジア海洋会議2015、それからPNLGフォーラム2015に志摩市の方から参加して参りましたので、事務局からご報告をさせて頂きたいと思います。環境管理パートナーシップ主催により11月に開催され、東アジア11カ国が参加する会議です。3年に一度開催されている国際会議で、2009年がフィリピン、2012年が韓国、今回がベトナムでの開催でした。11月16日～21日までベトナム中部のダナン市で開催されました。ここでは、700名と書いてありますが、ベトナムのホームページを見ますと、800名ほどの参加があった様です。1枚めくって頂き、これまで、フィリピン・韓国で開催された会議でも参加をしておりますが、今回のベトナムの会議では、11月17日に本日お越し頂いております、海洋政策研究所、それから兵庫県に事務局があります国際エメックスセンターが主催された分科

会の中で志摩市の事例報告等をさせて頂いております。それから、11月20日には11カ国の閣僚級の会議が開催され、その昼食会で、大口市長が自治体代表として、沿岸域総合管理の取り組みを進めていくというような事と、サミットの会場となった事を報告させて頂きました。また会場内で、海洋政策研究所の皆さんが、日本国内の沿岸域総合管理モデルサイトの紹介をするブースを出展されて、そちらでも志摩市のパンフレット等を展示させて頂いてPRに努めてきました。また、東アジア海洋会議終了後の20日の午後に、PNLGのフォーラム、2年ほど前にPNLGのフォーラム2013、自治体会合の定期大会を志摩市内で開催しましたが、このフォーラムが20日の午後に行われまして、PNLGの次の長期の計画策定、2016年～2020年までの計画策定について話し合いがされましたので、こちらに出席してきました。以上で報告終わります。

#### 寺島常務理事

東アジア海洋会議2015及び、PNLGフォーラム2015の報告がありましたが、この東アジア海洋会議というのは、先程話がありました、東アジア会議環境管理パートナーシップ(ペムシ:PEMSEA)という、現在地域の国際機関になり、フィリピンのマニラに事務局があるのですが、そのペムシが3年に1回ずつ開催しているものです。正式メンバーは、東アジア11カ国の国々ですが、ペムシの注目すべき点は、政府間の会議だけではなく、なるべくいろいろな主なステークホルダーに入ってもらおうと言う事で、一つは“地方政府”という言葉を使っていますが、各国の地方自治体の事です。これは、ペムシのもとで沿岸域総合管理を実施している各国の都市、現在は30を越えていると思いますが、その地方都市が集まって、PNLGという会合を持っています。東アジア海洋会議そのものではありませんが、当時、いつもPNLGの総会を開いていろいろやっておりました。それから、東アジア海洋会議では、各国の沿岸域総合管理の取り組み等の発表も行っております。その他、地方政府だけではなく、青年の人達、あるいは、メディアが集まり3年に1度の会議で、持ち回りで今回はベトナムのダナンで開催されました。一つ強調したいのが、このペムシの取り組みに、沿岸域総合管理をしている地方都市として、志摩市がPNLGというネットワークに参加しておりまして、非常に活躍をされているという事です。先程の話にもありましたが、日本で実施している沿岸域総合管理の取り組みに、他のモデルサイトとともに発表をしたという事、それから、11カ国閣僚級会合の昼食会で大口市長がプレゼンテーションを行ったという事です。三人程行った中で、志摩市長とオーストラリアのウーロンゴン大学の海洋資源研究所の所長さんなど、そうそうたる人達が発表をしているところで志摩市が沿岸域総合管理で海を活かしたまちづくりに取り組んでいる、新しい里海づくりに取り組んでいること、それからそういう取り組み等も寄与したであろうということで、伊勢志摩サミットが今年開催されるというような事を発表されています。という事で、志摩市の取り組みが日本国内だけではなく、アジアの中でも注目されているという事をご報告させて頂きます。

高山会長

有難うございます。これに関して何かございますか。それでは、資料 2 - 2 に今後の予定がありますので、そちらに移りたいと思います。

事務局

資料 2 - 2 が、平成 28 年 3 月末位の間で終わる予定になっております取り組みの紹介になります。項目ごとについては、取りまとめの資料をご覧頂いて、本日、後ろにちらし等をつけております。1 枚目が、1 月 31 日開催予定の伊勢湾流域圏再生シンポジウム、2 枚目が 2 月 2 日に開催される平成 27 年度第 2 回三重県漁港漁場研修会、3 枚目が伊勢志摩サミット開催 100 日前記念企画仲間と一緒にカウントダウン、それからホッチキスで綴じておりませんが、これに続く資料として、伊勢志摩真珠職人物語のちらしが 1 枚、それから先程追加で配布しました、伊勢志摩国立公園満喫 横山ビジターセンターで自然と遊ぼうを 1 枚、全部で 5 枚付けております。

高山会長

それでは、補足説明と言う事で、1 月 31 日のシンポジウムの説明をします。これは主催の 5 つの市民団体から提案があったもので、ウミガメの保護をやっている団体や登志島のゴミ問題をやっている団体、長良川の河口堰のことをやっている団体等が、一度まとめて実施してみようと言う事で、伊勢湾の統合管理と言いますが、陸と海の繋がりというところでみると、みんなつながっているという話しになりますよという趣旨でやろうということで、各団体から報告を受けながらパネル等をやろうという形になっております。会場は四日市です。それでは 2 枚目から説明をお願いします。

松田委員

2 枚目、2 月 2 日のイベントに関わっていますので、説明させていただきます。タイトルになっている「里海資本論」は、初めの講演者であります NHK の井上さんが 2 年ほど前に中心となり、里海の NHK スペシャルという番組で瀬戸内海中心にして全国放映されましたが、その時に取材した材料をもとにして、NHK の若いディレクター達が共著で「里海資本論」という角川新書で本を出しましたが、そのタイトルを使って、そういった考え方を伊勢湾でも応用しようと言う事です。ご承知の通り、全国どこでもアサリが取れなくなっていますが、伊勢湾の中の三河湾だけがいろいろと工夫をして、かなり資源量を増やしていますが、それを三重県の伊勢湾でもそれに学びながら、新しいアサリの復活をしようというプロジェクトが進んでいます。その次は、浦中さんから、新しい里海創生ということで、ご紹介がある予定です。それからつい最近、水産庁の方で「藻場干潟ビジョン」という将来像がまとまりまして、まだ公表はされていません。間もなく公開されると思います

が、その中心的な役割を果たされた中西計画官が話題提供をされます。その次の水産研究所からは、研究員の国分さんから、伊勢湾のアサリ復活に向けてという話題提供があり、それらを踏まえて総論討論しようというものです。里海という考え方の中でアサリをテーマにして、アサリが復活すると潮干狩りができるとか一般の人にも分かりやすいですので、アサリを材料にしてこの研修会が行われる予定です。

#### 川口委員

「仲間と一緒にカウントダウン」というのが続いてあると思いますが、この2月16日がサミット開催100日前となります。この100日前をきっかけと言いますか、時期と捉えて、伊勢志摩サミットの市民会議では、いろいろな催しを検討しております。まず、ここには載っていませんが、2月14日には市内一斉の清掃活動を市内各所で行う予定にしております。また、2月20日と21日にかけては、各5町で関連のイベントということで予定しております。その中の一環として、今回挙げさせて頂きました、「仲間と一緒にカウントダウン」の催しを行います。内容につきましては、下の企画内容説明を見て頂きますと、5人以上のグループであれば、どなたでもご応募頂けます。そこのグループなり団体の方に、何日前ということで、こちらから出向いて映像を撮らせて頂き、それを一つにまとめてアフターサミットのイベントという事で披露していく事になります。ずっと残りますし記念になりますので、ご興味があればサミット推進室へ申し入れてください。まだ枠は残っておりますので宣伝をお願いします。

#### 高山会長

面白いアイデアだと思いました。

#### 山際委員

伊勢志摩の真珠職人物語のイベントを2月27日28日に東京の三重テラスで開催する事になりました。これを始めたのは、真珠そのものをしている養殖会社の我々が、陰りを見せられている中で、我々からPR活動をしなければいけないのではないかという事で、三重県、志摩市の協力を得て真珠養殖会社が開催するものです。第1回目は、ここの商工会議所で実施しました。去年は伊勢市の真珠会館でした。去年Mie-Muで開催し、その中で反響が大きかったものですから、東京へ行ってやってみようと言う事で実施することになりました。今年5月に伊勢志摩サミットがある中で、特産物である真珠を大いにPRして行きたいと思えます。

#### 高山会長

今朝、パンフレットを作ったという番組を見ましたので、紹介して頂けますか。

#### 山際委員

実は、持ってきているんですけどね。志摩市にもありますよね。最初は、外国プレス向けに英語版を作ったのですが、その後、日本語版も作る事になりました。真珠協会、養殖業者、二次の加工業者、あるいは伊勢志摩の小売業者の皆がそろって業界全体で真珠のPRをしていこうと言う中でこのパンフレットを作りました。また、我々が伊勢志摩で作った真珠を区別してもらいたいと思ひ小売業者さん用にテキストを作りました。店頭では、中国の淡水や南洋の白蝶・黒蝶等と一緒に販売されていますので、その中で小売業者さんにはテキストを作って勉強してもらい、店頭で販売をしてもらう際には、我々がつくった伊勢志摩の真珠と区別して販売してもらいたい、できれば、伊勢志摩へ来て玉の真珠を買ってくれた人にも区別してもらいたいと思ひて作りました。

#### 高山会長

この協議会でずっと議論していましたテキストがこういった形で一つ実現したんだなと思ひます。ありがとうございました。

#### 雨宮委員

お手元にありますカラーの「横山ビジターセンターで自然と遊ぼう」の資料をご覧ください。横山ビジターセンターでは、年間 25 回程度、国立公園の中でイベントを開催しております。平成 27 年度最後のイベントとして、3 月 12 日にアオサのりの収穫体験を実施する予定です。これは、アクアヴィラの再生干潟で開催する予定です、例年定員以上の申し込みがあり、非常に好評です。今年度はアオサのりの網を張るところから、環境省、志摩市、アクラヴィラの職員も一緒に漁業者の指導をうけながら実施する予定です。また、その様子を環境省の今年度の事業である干潟再生普及啓発映像プログラム資料作成の撮影の場とさせて頂いて、こういった活動を PR して行きたいと考えています。

#### 事務局

事務局から一点だけ追加させて下さい。里海推進室の方で、次世代協働プロジェクトで“モタニ屋”という、藻谷浩介さんにコーディネーターをお願いして、高校生、大学生を中心に人材育成の形で取り組んでいます。その活動報告会のような形で日程をとりたいと言う事で 2 月 24 日に 16 時～18 時、場所はこちらの商工会館を予定しています。藻谷さんにもお越し頂き開催したいと考えております。正式にちらしができ上がりましたらお配りさせて頂きますので、どうぞ宜しくお願いします。

#### 高山会長

今後の予定という事でいくつかありましたが、他に何かありますか。それでは、5 番の具体的な取り組みの進捗をお願いします。

## 西崎専務

観光協会です。資料3-1をご覧ください。渚の交番の運営委員会の取り組み状況と成果という事で報告です。初めに、日本財団への申請ですが、10月23日第2回志摩渚の交番運営委員会を開催しまして、事業申請に伴う事業計画書の内容について意見交換を行い、申請内容について承認を行いました。続きまして10月30日ですが、事業申請ということで、一社ですが、伊勢志摩里海学舎から日本財団への事業申請が2点ございまして、平成28年度のソフト事業で、志摩の渚の交番の推進事業と、平成28年度のハード事業、志摩渚の交番建設事業、この2点がございまして、1番目のソフト事業につきましては、志摩渚の交番プロジェクトを推進する為に必要となる各種コンテンツの確立を目指した取り組みに対する支援という事で、平成28年度から30年度の3年間、日本財団の支援を申請しました。平成28年度は必要となる備品の購入とともに、コーディネーター等の運営体制の確立、里海ツアーガイドの育成等を行い、4年後に助成金に依存しない自立した体制の確立を目指して行くという事です。建設事業ですが、渚の交番建設にともなう各種測量試験費、及び設計費、建築費に対する支援、申請費の10割おおむね1億円を上限としまして予定しております。志摩渚の交番は間崎島に整備する事になっていきますから、移動割増等にともない、事業費が増額となることについて、こちらは協議が済んでおります。続きまして、11月の10日から12月の17日です。日本財団の審査会で、事業内容を説明する為の各種資料作成ですが、日本財団の事業採択に係る審査会で日本財団の担当者が申請内容についての説明をする為に里海推進室と連携を図って、一つについては、志摩市における課題の整理、間崎島の現状と課題、渚の交番の役割、二点目が「なぜ間崎島に必要なのか」、実施予定事業の5W1H、もう一点が「里海学舎ネットワークの構成と活用方法の整理、その他について、要求資料を作成し、日本財団担当者の理解を得る為に十数回のやり取りを繰り返し行っております。今後の取り組みについてですが、一つ目が地域資源を活用した理科教材の開発ということで、里海推進室ですが、2点ございまして、里海学舎構築業務の一環として、アコヤガイの解剖キットの開発にとともなう教材の検証として、モデル事業を実施中です。もう一つが三重大学、立命館大学との連携協定に基づき、立命館高校及び、三重大学付属小学校で授業を実施中です。二つ目が、日本財団の渚の交番プロジェクトの今後のスケジュール・予定ですが、平成28年1月末、審査会に用いる資料等の作成です。こちらは作成し終わり、日本財団の担当者が申請書や補足資料を基に説明する事になっていきます。続きまして、平成28年2月下旬から3月上旬に審査会が予定されており、採択されれば組織内限定となり内示が通知をされると言う事です。内示の通知後ですけど、事業採択にかかる手続きを得て事業着手が可能となります。ハード事業については、地質調査が行われ、設計業務に至って、建築工事は9月ごろの発注見込みですが、竣工については3月末を見込んでいます。ソフト事業につきましては、4月から随時実施をしていきます。以上です。

高山会長

今の報告に対してご意見・ご質問はありますか。特に無いようですね。では、2番目の地域資源のテキスト化についてお願いします。

原口委員

それでは、地域資源のテキスト化に関する進捗状況についてご報告いたします。まず、取り組み状況ですが、きんこのテキスト化は、マシマのきんこを主体とした地域資源のテキスト化について、生産者の方々と協議、または内容確認を実施しています。また、立命館大学の学生さんによる隼人芋、きんこ加工実習を実施し、農家からの加工手順についての説明や、きんこ以外の商品の取り組みの状況についての説明を受けたところです。あかもくについては、前回少しご報告をさせて頂きましたが、完熟天然あかもくを素材とした地域資源のテキスト化について、情報が少なく担当部署で協議をしたという事です。それから、志摩ブランドについては、現在志摩ブランドの認定を受けているものが6品目ありますが、それぞれ認定された事によって、非常に認知度があったものやそうでないものもあります。という事からブラッシュアップをしまして、PR用のちらしの制作にかかる取材を行い、現在、作成中で、今年度中には完成する予定です。次に今後の取り組みにつきましては、志摩のきんこのテキストについては、今後、鳥羽志摩農協さん、商工会、生産者で内容を確認頂き、これは最終段階となっておりますので、今年度中に完成させたいと思います。それから三重大の方のネザキ教授による農業座談会の開催を予定しており、今後、志摩地域に適した隼人芋栽培方法を作成する予定にしております。また、先程申し上げました、立命館大学の学生さんによって、隼人芋の収穫実習、健康加工実習を通じて体感をした事を活かして頂いて、若者の発想による商品開発を実施して行きたいと思っています。あかもくにつきましては、現在は、市の内部で協議しているところですが、今後、各漁協さん、商工会さん、三重県の水産研究所の皆さんとご協力頂きまして、採藻の時期、量、方法、出荷等をまとめて、生産者へ周知する事を予定しております。それから、志摩ブランドにつきましては、現在、ブランド認定されている6品目について、生産者、事業者による商談会への参加や外部専門家の評価報告会等を行って、志摩ブランドとしての特産品の価値を最大限に引き出す方法の検討と、志摩ブランド認定事業所からの相談対応、それから情報発信を行うしくみについて行って行きたいと思っています。また、ここに書いてございますが、今年も志摩ブランドの募集をしており、新たに応募されたのが8品目あります。志摩ブランドにつきましては、3年毎に更新をする事になっており、今年は、3品目更新の時期となっております。華牡蠣、あおさ潮ようかん、越賀手法のきんこが更新時期を迎えておりますので、これらの更新と新規の8品目と併せて、2月中旬に審査会を実施し、3月初旬に協議会を実施して、そこで今年の新たな商品等の決定をしていく予定です。

高山会長



ただいまのご報告に関しまして、何かございますか。里海学舎、地域資源のテキスト化とともに一步一步進んでいるという印象を受けました。今日の資料にはありませんが、干潟の再生に関しまして、口頭で進行状況の報告をお願いします。

#### 雨宮委員

干潟藻場の再生の状況について口頭で報告させていただきます。前回からあまり進捗がありませんでしたので、資料の方は抜かせて頂きました。前回の会議から今日まで4か所目の干潟再生事業を実施するという事で、里海推進室、または自治会が中心となって調整を進めさせて頂いておりましたが、今年度中の実施が困難になりましたので、その点だけお伝えさせていただきます。また、先程資料の方で少しご案内しましたが、干潟再生普及啓発の為に映像作成業務、また、アオサのりの収穫体験を引き続き実施していきます。簡単ですが以上です。

#### 高山会長

ただいまのご報告に関しまして、何かございますか。それでは、今日のメインである6番をしっかりと時間をかけてやって行きたいと思います。

#### 事務局

事務局の方から、第2次の基本計画策定状況について、資料4をご覧頂きながら説明させて頂きたいと思います。事前に委員の皆さんには第6稿をお送りさせて頂いておりますが、その後いくつか色々な修正意見等を頂いておりましたので、今日までの間に事務局の方で修正内容を検討させて頂いて、新たに本日お配りしました第7稿の計画を作成しております。本日、資料の4-1としてお配りしております。また、資料4-2として、これまでの計画を作ってきた作業の過程と、第2次の基本計画見直しにおける主な留意点を取りまとめた資料をお配りしております。まずは、資料4-2をご覧下さい。最初に、これまでの見直し作業の流れについて、簡単にご説明させて頂きたいと思います。第2次の基本計画の見直し作業についてですが、基本的に昨年の評価専門委員会の方で評価と提言をして頂いておりますので、その作成して頂いた評価及び提言書の内容を反映する形で、事務局の方でたたき台作りをさせて頂きました。それから、6月～8月頃にかけて、市民の皆さんからの意見の募集ということで、広報志摩を通じて、具体的な取り組みに関するアイデア等の募集をしました。それから、関係団体の皆さんとの意見交換等も進めております。その後、並行して作業等が進められております第2次の志摩市の総合計画、それから、志摩市の地方創生に向けた志摩市総合戦略との整合を図りながら、協議会に参加頂いている団体の事務職員の皆さんの協力を頂いて見直しの作業部会を立ち上げて、具体的な取り組み内容を中心に、記載内容の修正作業を進めております。また、海洋政策研究所の皆さんから全体構成等についてアドバイスを頂きながら見直しを行っております。本日の協議会

でお配りさせて頂きました第 7 稿の計画書につきましては、ほぼ最終段階の計画案になりますので、本日、内容をご確認頂いた上で、修正点を更に反映させて頂いた最終稿という形を作成しまして、市長に提出する事になる運びにしたいと思っております。その後、市民の皆さんからパブリックコメントを頂いたり、市議会、議会の方で説明させて頂いて、最終調整を行って完成というような形になるかと思います。

高山会長

只今資料 4 - 2 にもとづいて見直し作業がどの様に流れてきて、これからどの様に発表していくかというお話しがありました。この確認はこれで宜しいでしょうか。それでは、中身の方の説明をお願いしたいと思います。

事務局

それでは、資料 4 - 2 の 2 ページ目をご覧頂きながら、第 2 次基本計画見直し作業の留意点等について、改めてご説明をさせて頂きたいと思っております。今回の見直しの作業で特に留意をしましたのが、本計画が新しい里海創生の町づくりに向けて具体的に何をするのかの取り組みの部分を説明する部分と、それからその様な取り組みをどの様に連携させて進捗の管理をしていくのか、沿岸域総合管理をどの様な形で進めていくのかという、2 部の構成を明確にするということに留意しながら作業を進めてきました。第 1 次の基本計画は、まだ何も取り組みの方向性が分からない中で、いろいろな事を想定して計画を策定してきたわけですが、第 1 期の 4 年間の取り組みの中で、いろいろな取り組みが行われるようになりまして、様々な経験をしてきましたので、第 2 次の基本計画案では、具体的な取り組みと進捗管理の 2 部構成になっておりますので、ご確認をお願いします。資料 4 - 1 としてお配りした第 7 稿を直接ご覧頂きながら、留意点についてご説明させて頂きたいと思っております。まず、第 7 稿の 4 ~ 6 ページをご覧下さい。第 1 章の「本旨が目指す姿」が記載されていますが、ここでは、第 1 次の計画では、独自に作成したキャッチフレーズ等を載せていましたが、第 2 次の計画では、第 2 次志摩市総合計画で規定された「目指す姿」を 4 ページに、それから、地方創生の取り組みのもとになります志摩市人口ビジョンで描かれた 45 年後の志摩市の将来像を 5 ページに記載して共有させて頂いております。新しい里海創生の目的が、志摩市の最上位計画である総合計画に基づくものであること、それから、町・人・仕事創生法に基づく志摩市創生総合戦略と連動して取り組みを進めて行くものだという位置づけを明確にするのと同時に、6 ページをご覧頂きますと、目指す姿に向かって、稼げる里海、学べる里海、遊べる里海の創生に向けまちづくりを進めていくという姿が本計画の目指すところだという形に整理をさせて頂いております。次に、18 と 19 ページをご覧下さい。第 2 章、まちづくりの推進体制の中で、取り組みの実施体制ですが、現在の 1 次計画では、この部分は案という形になっておりましたが、現在のこの協議会の実施体制に合致するように記載内容を変更して、左側に取り組みの実施者、右側に取り組みの進捗管

理者の形で整理しております。取り組みの実施者が具体的な取り組みを実施して、その進捗管理であったり、評価をこのお集まりして頂いている里海創生協議会が担っていくという役割分担を明確にしました。また 19 ページの(2)で、3つの区域毎の分科会を設置するという形になっております、現時点で、まだ分科会の設置まで至っておりませんが、今後、この分科会の設置に向けて取り組みを進めていく必要があるということで、66、67 ページをご覧頂きたいのですが、現在の協議会の取り組みの中で、いろんな沿岸域利用の為にルール作りがあまり進んでいない部分があります。67 ページの一番上にコラムとして、海浜のルールブックというコラムを残していますが、こういった事に今後取り組んでいく必要があるのではないか、実際、英虞湾の中で色々な問題が起こっているのではないかという事で、こういったテーマで沿岸域分科会を今後設置して協議を進めて行く必要があるかなと言う事で、調整を今後進めて行きたいと考えておりますので、皆様にはご協力をお願い致します。それから 3 番目、20 と 21 ページをご覧下さい。この項目では、第 1 次の計画では、第 4 章に離れて記載されておりました、進捗管理の PDCA サイクルを第 2 章に持ってきて、沿岸域総合管理のサイクルとして、PDCA を取り入れていくという事を集約しております。22 ページから 30 ページの間になります。この間が、第 1 次の計画ではなかった部分ですが、PDCA サイクルの評価を行って第 4 章の具体的な取り組みを変更しましたよ、という事を明確にするために、22～30 ページの間に第 1 次計画の実績と評価の新設をしております。また、27 ページをご覧いただきますと、右下の赤の点線の囲みで、「海洋立国推進功労者表彰受賞」というコラムを掲載しております。これは、志摩市の町づくり自体が全国で初めて、内閣総理大臣賞を受賞したという事なんですが、外部評価の一つとして評価の部分に掲載させて頂いております。次に 5 番目として、31～75 ページの第 4 章ですが、この部分は先程説明させて頂きました様に、第 2 次の志摩市総合計画基本計画、それから、志摩市地方創生の総合戦略、それから作業部会の中で関係団体の皆さんと調整をしながら記載内容の検討を行っております。この 4 章の具体的な取り組みの中には、地域の取り組みというコラムがいくつか掲載されています。33 ページをご覧頂きますと、新しい里海のまち宣言というのが地域の“取り組み 1”として掲載されていますが、第 1 次の計画では 19 事例を載せていましたが、第 2 次の計画では、28 事例に増やして、新しく始まった取り組み、それから、以前から継続して取り組まれている取り組みを市民の皆さんに紹介する形にしています。それから、78 ページ以降になりますが、これは付属資料になります、資料 1 の統計データにつきましては、今まで単年度の統計結果等を載せていた項目がありましたが、ここ時系列で推移が分かる様な形のデータに変更させて頂きました。それから、94～100 ページにつきましては、第 2 次志摩市総合計画の策定に係る市民アンケート結果の中から、新しい里海創生による町づくりに関係する部分を抜粋して掲載しております。それに引き続きまして、101～104 ページについては、本計画が副題として志摩市沿岸域総合管理基本計画という名前を付けている事がありますので、沿岸域の総合管理に関する詳細な説明資料を追加させて頂いております。この資料は、海洋政策研

究所から、平成 27 年 3 月に国に提出された提言書の内容を記載しました。今回の見直し作業では、こういった点に留意しながら作業を進めてきたという事になります。

高山会長

作業の留意点について、概要的に説明がありましたが、この後、第 6 稿から第 7 稿に変わるときに、どの点をどの様に直したかの説明を受けますが、ここまでで何かございますか。

野村委員

会長がおっしゃった様な仕切りの中で、もう少し自由な発言があると、事務局の話を聞いてしていると非常に事務的な話して、一度、本文の話をさせて頂いても宜しいでしょうか。前回の協議会の議事録が載っており、17 ページに私の発言がありますが、その時にも話をさせて頂いた事で、PDCA サイクルで見直しの説明と第 1 期計画から、今回の第 2 期基本計画に向けてやっていく中で、第 7 稿で言えば第 3 章で第 1 期の評価をしているわけですが、その中で、毎回、協議会をされるタイミングで重点事項ということで、伊勢志摩里海学舎や地域資源テキスト化の進捗状況、あるいは干潟藻場再生の進捗状況等の説明を頂きますが、この 7 号であれば、第 3 章の 26~27 ページでそういったところが、第 1 期の基本計画の中で位置づけて更に進めていかないといけないという様な評価がされているわけで、その辺が大事なのではないかと前回発言させて頂きました。第 4 章で(基本計画の中で一番大切な“具体的な取り組み”の紹介、それから、第 2 期計画の中で“どういった事をやっていきますよ”の具体的な取り組みの紹介も併せて、第 1 期の基本計画の中で評価された 3 つがそれほど落としこまれていないと思います。例えば、干潟藻場は 41 ページのところで、分かりやすく整理してしっかり書いて頂いていますが、例えば、伊勢志摩里海学舎については、第 7 稿の 59 ページの一番下に「里海学舎の構想を進める中で」といった形で書かれていますが、元々里海学舎のコンセプトの書きぶりが難しい部分があるのかもしれなくてサラッとしか書けない部分があるのかもしれないのですが。後は、テキスト化については、サッと見た感じでは、どこかに書いてあると思うのですが見当たりません。PDCA サイクルで評価して、第 2 期計画では更にしっかりやっっていかなければいけないという所が、第 4 章の具体的な取り組みの事例の中で書きぶりが少ないと思います。干潟藻場についてはしっかり書いて頂いていますが、後の 2 つがどうなのかなと思います。この協議会が始まる前に事務局へはお伝えしましたが、伊勢志摩里海学舎の性質そのものを、どこかにちゃんと書く必要があるのではないかと。寺島常務理事から説明頂きましたが、ややもすれば、渚の交番プロジェクトは日本財団の方の事業になってしまいますので、それはそれとして補助メニューの中で 1 億円を上限として体験等の整備をできるのは、大変良いとは思いますが、元々伊勢志摩という名前をつけて里海学舎構想があるので、それをもう少し包括的な組織化というか、人材育成と言いますか、あるいは窓口機能、プラットフォーム化、その辺をもう少し書いた方が良いような気がします。最後になりますが、6 稿で

は2章で同じ様な事になりますが、14~15ページの中で、今私が申し上げた評価の中の3つに印がついています。印がついているのは重点事項なのかなと思いますが(印の意味がよく分からないと言う事もありますが)、この文脈の中で、これだけを取り上げるのはどうなのか、という話しももしかするとあるのかもしれないのですが、第7稿の方には、26ページの里海学舎だけに印があって、テキスト化や干潟藻場には印がなくなっています。印は、強調や重点、あるいはどこかに参照として説明があるという意味だと思うのですが、第1期の基本計画で評価されたところを、第2期計画の第4章の中で落とし込む時に、もう少ししっかり書いた方が良いと思います。最後にもう一度になりますが、私、第6稿はしっかり読みました。非常にバランスがとれて良く出来た基本計画だと敬服しました。そういった意味で、今言った3つの部分については、もう少し具体的な取り組みの中で書いて頂いた方が良いと思います。

高山会長

貴重なご意見を有難うございます。私もまさにその通りだと思います。

松田委員

只今の3点のうちの里海学舎については同じような印象を持っておりまして、例えば、26ページに里海学舎があります。これは魅力的な観光地の創生の中にあります。それから、30ページにも真ん中から下に、これは要約ですが、魅力的な観光地の創生の中に触れられています。それから、もう一か所は、先程ご紹介がありました59ページ、ガイド養成という事が出ていますが。ですから、里海学舎については、この3箇所では触れていますが、そもそも里海学舎がどういったものがどこにも書いていなくて、しかもここでは重点として、“魅力的な観光地の創生”に重点が置かれています。そもそもの構想からすると、学べる里海にも関係している部分があって、そういったものが拠点とか中心的なネットワークになるという事を書いた上で、ただ、渚の交番は最終的に採択されるかどうか確定していないわけですが、それも踏まえた形で、もう少し真正面から描いた方が良いのではないかと思います。

高山会長

有難うございます。そうなんですよね、いわゆる重点的な取り組みは偶然取り出した物ではなくて、網羅的なままでは何が重点なのかが分からなくなるので、いろんな事に取り組むんだけど、その特別な3つを取り出す事によって全体的に関係しながら進んでいけるんだと、個性的に取り出した3つの重点項目なんです。ですので、そういう精神はきちんと書かないと伝わらないですね。このままでは、第1期の計画の様に網羅的な形で終わっている印象を与えてしまうということで、もったいないので、今言って頂いたような形で第4章のところの記述を補足していかないといけないと思いました。という事で、

今のご意見などに関して何かございますか。では、事務局の方で今の意見について何かありますか。

#### 事務局

回答と言う事ではないですが、例えば、里海学舎ですと、48、49 ページの第 6 稿までは、新しい観光の推進の項目を、里海ツーリズムの推進という形に変えていますが、こういった中で里海学舎の位置づけが非常に重要な役割をしていくと思いますので、こういった所で特出しで、里海学舎であったり、後はテキスト化については、最後の情報発信のところで、“地域イメージの効果的な情報発信”の項目になるかと思うのですが、こういった部分で明確な形で書き込むような修正について検討をするべきかなと感じています。

#### 高山会長

第 3 章の方でももう少しきっちり書いた方が良いのかなと思います。第 4 章では補足する必要があるということで、第 3 章の括弧の四角の中の“評価のまとめ”と言うのは、私の方で手をいれて完成版にしたいと思います。これから手を入れますので、今のご意見が非常に大事なので、第 3 章でも補足しながら、なぜこの 3 つを重点としたのかを書きたいと思います。併せて第 4 章の方で、補足する必要がある所はもう一度見直していくと、全体の構造が見えてくるというか、要所が網羅的に見えているのがもったいないと思いますので。従来考えてきた事で、新しい事を書くわけではありませんので、もう一度、書き直したいと思います。という事で、これからの報告は、6 稿から 7 稿に変わる時に、変更箇所の説明をしていく予定なのですが、そこへ入る前にご意見があればどうぞ。では、その報告を受けて、その後に議論をして行きたいと思います。

#### 事務局

では、第 7 稿での主な変更点をかいつまんで説明させていただきます。頂戴した修正意見等、それに対する対応案は、資料 4 - 3 として一覧表の中で整理をしています。具体的にどの様に変更したかを、お伝えした部分もありますし、修正を加えましたという事だけご報告をしたものもあります。また、事務局で判断ができず、対応案が白紙になっている部分、修正を検討するという形になっている部分もあるのですが、第 7 稿の中で変更した部分は赤字で記載しております。まず 1 ページですが、全体的に使っている用語が難しく、市民には分かり難いのではというご意見を頂いておりましたので、できる限り分かりやすい言葉に置き換える事と、言葉を統一しようということで変更・修正作業を行っています。次に 4 ページをご覧ください。第 1 期の計画では、章の始めに、その章の中で何を書いているかを説明している項目がありませんでしたので、各章の頭に前文を追加して、まずその章で何を書いているかを説明した上で本文に入るという構成にしました。次が 7 ページになります。志摩市のまちづくりの取り組みの基本方針と非常に重要な部分になるわけです。

が、取り組みのイメージの中で、真珠層となる沿岸域資源の持続可能な利活用という形で、第 1 期は表記していましたが、ここを自然の恵みという形で、分かりやすいと思い、変更しています。また地域の魅力の向上と発信を地方創生と合わせてまちの魅力の向上と発信に変更しています。それからその下にある説明文ですが、一つひとつの取り組みが輝くという事も大事ですが、連携してやっていくのがこの計画の趣旨にありますので、ネックレスの様につないでくという部分が非常に大事なのではないかという意見をいただいたのですが、スペース的にイラストとしてネックレスを入れるのは難しいという判断から、“ネックレスの様に”の部分“表紙に示した様に”という形で（現行の表紙をそのまま第 2 期でも使いたいと思いますので）説明しています。それから 11 ページ、第 2 章をご覧ください。第 1 期の取り組みの中でよく言われましたのが、新しい里海とは何かということをもっと明確に単純に説明できる様にした方が良いという意見を頂きましたので、コラムで新しい里海の定義を改めて短く定義しております。元の里海の定義というのが、「人手が加わることにより生物生産性と多様性が高まった海」という風に定義されている事を受けまして、志摩市が言っている“新しい里海”というのは、志摩市の陸域と海域を一つの沿岸域として捉えて、人による自然の恵みの利用とバランスのとれたエリアのことを新しい里海だという風に定義してはどうだろうかということで、この形に修正しています。新しいという言葉の中には、色んな取り組み内容が常に新しくなっているとかという様なニュアンスも含めて、今まで説明してきましたが、それですと非常に長くなりかえってわかり難いのではないかとということで、里海の定義に対して、「新しい里海とはこうだ」という形に変更しています。それから、22 ページでは、ここは第 1 次基本計画の実績と評価という形ですが、ここは昨年の評価提言書の、内部だけの評価なのではないかという批判もありましたので、外からも高い評価を頂いているということで、海洋立国の推進功労者賞なんかを受賞した事を 27 ページに追加をさせて頂く様な工夫をしています。次に 31～75 ページまでの具体的な取り組み内容の変更点ですが、31 ページを見て頂くと、先程取り組みの基本方針、3 つの核と真珠層と輝きの部分で、“沿岸域資源”という言葉“自然の恵み”に、“地域の魅力”を“まちの魅力”に変えたさせて頂いたことを反映して、その以下に続く項目を、タイトルを変えました事と、稼げる里海の創生の部分で、新しい観光の推進という項目だったのですが、里海学舎も含めて、里海ツーリズムを推進していくんだと言う事で、志摩市の観光振興計画の副題で、“里海ツーリズム推進”という言葉を使っていますので、“里海ツーリズム”という言葉に変更しています。それから 34 ページ、取り組み体系の、自然景観の保全と管理ですが、ここの部分を園地整備を行いますという事しか書いてありませんでしたが、ここの部分については、サミットの開催も含めて、やはり景観そのものを保全していくということをしかり書くべきだということで、35 ページの景観の保全の内容とあわせて、景観計画や関係法令等に基づく美しい自然景観と調和した歴史や文化的景観を保全していく、という書き方に変更しています。それから、91 ページをご覧ください。付属資料になりますが、91 ページの 5 に地域資源という項目があります。この

(1)の景観については、志摩市の景観計画策定以前に、眺望景観と圍繞(いによろ)景観という形で整理をしていますが、現在の志摩市景観計画の中では、違う形で志摩市の景観要素の整理が行われていますので、今後、この部分は大きく差し替えをさせて頂いて、志摩市景観計画との整合を図っていきたいということで現在、調整をしているところです。以上が主な変更点になります。その他、細かい変更がたくさんありますが、資料4-3と照らし合わせながらご確認をお願いします。

高山会長

変更点ということ言えば、地域の取り組みが第6稿に比べて増えているのも変更点ですね。

事務局

6稿と比べて、53ページに先程山際委員の方から紹介がありました、真珠のパフレットを作られている三重県真珠振興協議会について取り上げてはどうかという事で、会長さんと調整をして、掲載希望の連絡を頂いておりますので、掲載する方向で原稿の作成をしております。

高山会長

この辺りの地域の取り組みが第1次計画であまり出ていなくて、よその地域の取り組みが沢山紹介されていまして。第2期計画で志摩市の取り組みがもっと具体的に出てくると、市民の方々が刺激を受けて、“自分もやってみよう”となっていくと思いますので、ぜひ小さな取り組みでもいいと思いますので、なるべく具体的なものを取り上げていけばいいと思います。この協議会さんで取り組まれているものでも良いですし、たまたま駅前で見撃した取り組みでも良いと思います。という事で変更点の説明がありましたので、この議論を受けながら、「ではうちとして、こんな事も掲載していきたい」等の事も含めて意見がありましたらお願いします。

寺島常務理事

先程、野村委員からのお話で、高山委員長から整理して頂いた方向で良いと思います。それについて若干付け加えさせて頂きます。やはり、里海ツーリズムとかそういう所で里海学舎というのを盛り上げるのは結構だと思いますが、その基になる、里海は色々学んでいくという部分があると思いますので、第3章なり何なりで、里海学舎についてもっときちんとやって頂く方向には賛成したいと思います。里海学舎について今まで踏み込んだ定義みたいなものがなかったと思いますので、その辺は高山先生の方で加えて頂けると、もっと深みが出てくる様な感じがします。それから2点目ですが、最初の所の言葉の整理ですが、1ページ目の“自然の恵み”と言い換えた所、その後、“自然の恵みの利用と保護



“、” 保全 “を” 保護 “と言い換えています。この辺のところは、こういった言葉を使うかは、特に海洋環境の保護や生物多様性の保護とか保全の言葉は、国際的に議論していた中で、プロテクションやコンサーベーション等の言葉をどういう風に訳して使うのかという事の中からきて、大体、我が国ではいろいろ保護・保全を一緒に訳していた時代もあったと思いますが、広い意味では” 保全 “という言葉を使っていると思います。ですから、海洋基本計画でも” 利用と保全 “という言葉を使っていますし、海洋生物多様性保全戦略という様な環境省で使った所でも” 生物多様性の保全と持続可能な利用 “という言葉を使っていますので、今まで使っていた” 保全 “をまたほごにするのは、少し引っかかると思いますか、普通使われている言葉を使った方が良いのではないかという事を意見として申し上げておきたいと思います。後は、割とよくまとまってきたと思います。

高山会長

“ 利用と保全 ” が一般的な使い方ではないかというご意見でした。どんなご意見でも結構ですので、完成に至るまでに、あと何をすべきかということをお願いします。

野村委員

里海学舎で、前田部長から制度についてお話しして頂いた時にはすごいなと思ったのですが、里海ツーリズムといった名前、そういう話しの中で整理されていくものなのかが疑問で、プラットフォーム化というか、基盤というか、組織化というか、なかなか大変な事だと思いますので、理念としては、誰しもがそういうのがあれば良いよね、そこがベースにあれば良いよねというのがあるのかもしれませんが、実際に売り上げを稼ぐ時に、すごく大変なハードルを乗り越えていかなければいけないのかなと思って、だからこそ、里海ツーリズムとか色んなところで、ちらばりの中で整理されているのですが、あまり真正面から、記述は難しいのかなと深読みをしてしまったのですが。そういった理解を私の中でさせて頂いております。それから、もう一つ、第 6 稿で、第 1 期計画の時に評価した時に印が付いていました。それが、第 7 稿では、里海学舎だけに 印が付いているのですが、これは何か意図があれば説明頂きたいのと、 印の定義の中で一般的に 印があれば、「大事なのかな」とか思ってしまいます。それから最後にもう一つ、いまどきの行政が計画を立てる時に、第 7 稿でいうと、106 ページに用語の解説がありますが、確かに用語の解説があれば有難いですが、これは無理を承知で言いますが、用語の一般的な解説をして頂くなら、基本計画でもう少し深掘りの所で、用語の解説の所で研究者の方がいろいろな論文や、しょうもない所で大事な事が書いてあるんですね、こういう事で中立的な透明感のある用語の解説は必要最低限必要だと思いますが、もう少し本文に関連した、本文の中で書ききれなかった所を参照する様なそういったページも要るのかなと思いました。

事務局

第 6 稿で 印をつけておりましたのは、評価の中で重点的に取り組んだ部分の、里海学舎、テキスト化、干潟藻場の再生に付けておりましたが、その後、せっかく用語説明があるが、本文中のどの言葉が用語説明に書いてあるのかを分かるようにした方が良いのではないかという意見があり、1 ページの最初の少子高齢化という所にも 印があるのですが、ここで付けている 印は、「用語説明の中に説明があります」という意味で付けています。これにともなって、評価提言のところの重点事項についていた 印をはずして、24 ページをご覧くださいと、上の 、第 1 次基本計画の取り組みに関する評価の概要のところの 1 行目のところで、「括弧書きは、里海創生推進協議会において重点的に取り組みを進めることとしたもの」という形で、括弧書きでの標記に変更させて頂きました。26 ページの魅力的な観光地の創生の 3 行目に 印が残っていますが、これは消し忘れです。用語説明のある部分に 印をつける形で整理していますが、修正、消し忘れ等がありますので整理して行きたいと思います。最後にご提案頂いた、本文に強くかかっている文献等の紹介等につきましては、今回は付属資料 3 のところで、沿岸域総合管理については、こ出しで入れていますが、どの部分を入れるのかのところまで、作業部会の中で議論ができていませんので、この部分について特に重点的に紹介をした方が良いものがありましたら、本文中にコラムの様な形で入れるか、もしくは付属資料の中で追加で記載するような形を検討する事になると思います。どの項目をそういう形で追加していくかについては、ご意見頂きたいと思います。

高山会長

作業部会の方で随分時間をかけて検討して頂いてきたと思いますが、完成させる為に後どういった点が必要かというご意見があれば、この場を出して頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

雨宮委員

修正漏れという事で、修正をお願いしたいと思います。資料 4 - 3 に書いてある第 7 稿の 35 ページの修正のところですが、 海域公園の指定で、「漁場の永続的な生物多様性の」に変更と書いてありますが、第 7 稿の方に反映されていない様ですので修正をお願いします。もう一点、この場になって修正が難しいのは承知していますが、志摩市として新しい里海のまちづくりとして、地域のプランニングをしていくという事ですが、美しい景観づくりというのは二つ、今後重要になるのではないかと考えておりました、景観の事については、自然公園法に基づく国立公園ということで主に書いて頂いていますが(35 ページ)、自然公園法で保全・保護する景観は、あくまで素晴らしい自然景観を邪魔しない程度の景観のことで、それが自然公園法の規制の範ちゅうになります。もう一歩進んで美しい町並みをつくるとか、田園風景をつくるという事になりますと、自然公園法の範囲ではなくて、景観法や景観計画に基づく一層の取り組みが必要になってこようかと思っておりますので、そういっ

た事を考えて頂ければと思います。一昨日土曜日のサミットのフォーラムでも外国人記者の方から、風景の中に大きな看板が突然出てきたり、派手な看板があったりということが指摘されましたので、今後ご検討を頂ければと思います。

高山会長

景観の取り扱いに関しては、これからも差し替える部分があります。実は、第1期の里海基本計画ができた後で、志摩市が景観計画を作っています。ですから、きちんとその二者を突き合わせる事によって、今言われたような自然公園法の景観よりも、もう一歩進んだ形での位置づけが出来ると思います。実際にそういった景観がつけられたわけですから、ですから、その辺りを差し替える時に注意して書いて頂きたいと思います。

松田委員

細かい点で恐縮ですが、45ページの地域の取り組み7という、漁獲サイズの上乗せによる漁獲制限、その通りなんです、この所は45ページの一番初めにもある様に、資源管理型漁業の推進というところで、取り組みの体系の資源管理型の推進ですので、それで、取り組みの7の中にも本文の最後の所には、「水産事業の積極的な管理に取り組んでいる地域があります」と書いてありますので、できれば、“漁獲制限”というよりも、“漁獲サイズの上乗せによる資源の積極的な管理”という風にポジティブな表現にしておいた方が良いでしょう。これは、こういったタイトルで決まっているのでしょうか。やっている事は漁獲制限なのですが、目的というか、より大きなこのテーマは資源の積極的な管理かなと思いますので。

高山会長

45ページの“地域の取り組みの7”ですね。他にご意見ございますか。いつまでにご意見を下さいという期限を今日決めて、その流れで更に気付かれた方はご意見を頂く流れにしたいと思いますが宜しいでしょうか。

事務局

今後のスケジュールと併せて説明したいと思います。この協議会で第2次の計画の原案の部分固めて頂いたあと、志摩市の計画として確定して行く為に、パブリックコメントをたどる手続きを2月上旬から1カ月くらいとる必要があるかと思います。また、印刷製本にも1カ月近い時間が必要になりますので、修正にはあまり時間が残されていません。最終どう修正するのも含めて会長と協議をさせて頂く必要がありますので、この後も修正意見がある場合は、今週いっぱいくらいで事務局へ連絡をお願いします。それを事務局で検討し、高山会長と共有して、最終版にさせて頂きたいと思います。

高山会長

という事で、今週中であれば、最終稿へ反映したいと言う事ですので、宜しく願います。細かい表現に関しましては、私と事務局の方で最終的に作成して事後承認という事になっていくと思います。いかがでしょうか。その他は何かありますか。

事務局

先程、野村委員からお話し頂いた用語の説明の件ですが、これについては、今までの里海基本計画の修正を検討する中で、できるだけ市民に対して分かりやすく説明できるような努力をするべきだという意見をたくさん頂いていますので、用語についてはせっかくここまで作ってきたというのがありますが、用語は残したいと思います。特に関連する項目で更に説明を強化するべき項目等がありましたら、追加で検討したいと思います。

高山会長

用語解説の作り方に関する事務局の考え方で発言がありました、いかがでしょうか。

野村委員

誤解のないようにしたいのですが、用語解説そのものがナンセンスだと言う事は言っていないくて、せっかくこういう風に透明感のある国語辞典的な用語解説であるので、それはそれとして、そういう機能は必要だと思いますが、それにプラスアルファして、本文とのリンクも考えて、そういった付加が出来ないのかなという意味で言いました。それは行政の表現の中では、なかなかそういった表現は難しいとは思いますが。

高山会長

では出来る限り心がけて繋ぎのところは表現して下さい。その他は何かありますか。

事務局

その他の項目になりますが、次回の協議会の日程について、今回皆さんにご議論頂いた計画内容を原案を固めた後、パブリックコメントを得て最終の基本計画の形になって行きますが、次回3月に、議会の関係等もあり非常に厳しい日程になると思いますが、3月末くらいに第4回の協議会が設定できましたら、そこで最終版の確定ということで報告をさせて頂きたいと考えております。3月に議会がありますので、日程については調整させて頂きたいと思います。先程、計画見直しの中でお話しをさせて頂きましたが、里海学舎・里海ツーリズム等が動きだしたりしまして、またシーカヤックやトライアスロン等の海を使った利用が非常に複雑になってきている状況があるかと思えます。これをどう整理するのかという様な視点から、英虞湾沿岸域分科会等の立ち上げに向けて準備を進めていく必要があるのかなと考えておりますが、漁業関係、観光関係の皆さんであったり、公安、漁港管

理者の皆さんと調整しながら検討を進める必要があると思いますので、今後、その辺りのご意見を伺いたいと思いますので、改めてご協力をお願い致します。

高山会長

では閉めをお願いします。

事務局

本日は長時間に渡りまして、貴重なご意見を頂き、有難うございました。皆さんからのご意見を参考にして、最終稿の作成に向けて取り組んでいきたいと思います。本日は、大変お忙しいなかお集まり頂きまして、有難うございました。ミスプリントが資料の中で 1 点ありましたので、差し替えをしたいと思います。議事録の P 6 が欠落していましたので、再度作り直しました。これにて終了とさせていただきます。